

大空 (生徒・保護者向け) 37号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和3年5月19日(水)

応援される人生2—奇跡の逆転ホームラン—(高校総体壮行式挨拶)

□本日の概要

- 応援をしたりされたりする人生がいい人生である。誰かを一生懸命応援すると、応援している人の頑張りに感動のエネルギーをもらうことができる。誰かを応援すると、自然と自分も応援されるようになる。人に何かを与える人が、結局何かを与えられる。
- 宮崎西高校は応援されるチームであって欲しい。在校生は頑張っている選手を応援して欲しい。
- 応援は、NFC (Nishiko Future Competency) の中の自他肯定力や、想像力、協働力を高める実践である。
- 皆さんの最大の応援団は保護者である。本校にすでに存在する、皆が応援し合い高め合う関係性を、より高めていきたい。

□2007年佐賀北高校優勝時の報道(記事は 2007年佐賀新聞 HP より転載したもの)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
広陵	0	2	0	0	0	0	2	0	0	4
佐賀北	0	0	0	0	0	0	0	5	×	5

第89回全国高校野球選手権大会最終日は22日、兵庫県西宮市の甲子園球場で決勝があり、県代表の佐賀北は5—4で広陵(広島)に逆転勝ちし、2度目の出場で初優勝を果たした。県勢の優勝は1994年の佐賀商以来、13年ぶり2度目。引き分け再試合を含め、大会史上最多の73イニングを戦い抜いた。

公立校の日本一は96年の松山商(愛媛)以来11年ぶり。今大会は特待生問題に揺れる中で始まった。それとは無縁の地方の県立普通校が快挙を達成した。

試合は広陵に2回に2点を先制され、7回にも2点を追加された。佐賀北打線は広陵・野村投手の前に7回まで1安打13三振に抑えられる劣勢だった。

しかし、佐賀北は8回1死から久保貴大投手がチーム2本目の安打で出塁すると、代打・新川勝政の安打と四球で満塁の好機を演出。2番井手和马が押し出し四球を選び、続く3番副島浩史が劇的な満塁本塁打で5—4と試合をひっくり返した。

2回途中から救援した久保投手の粘り強い投球と、再三のピンチに耐えた堅い守りが逆転劇を呼び込んだ。

決勝での満塁本塁打は94年の県代表、佐賀商・西原正勝以来2本目。決勝での逆転満塁アーチは史上初めて。

佐賀北は開幕試合で甲子園初勝利を挙げ、2回戦で宇治山田商(三重)と延長15回引き分け再試合を制し、準々決勝では3度の全国優勝を誇る帝京(東京都)に延長13回サヨナラ勝ち。大会史上最多の73イニングを戦い抜く中で1試合ごとに成長していき、全国4081校の頂点に立った。



佐賀北高校副島選手逆転ホームランの瞬間
(佐賀北の伝説の試合はYouTubeでダイジェストを見ることができます)

□応援されるチームであれ

昨年は高校総体が中止になったため、高校総体壮行式は残念ながらできませんでした。しかし、壮行式があったら伝えなかったことを昨年は校長通信8号で配付しています。その中で私が紹介したのは、延岡の老舗和菓子屋「寅彦」の社長、上田耕市さんの言葉です。それは、「応援をしたりされたりする人生がいい人生である。誰かを一生懸命応援すると、応援している人の頑張りに感動のエネルギーをもらうことができる。誰かを応援すると、自然と自分も応援されるようになる。人に何かを与える人が、結局何かを与えられる。」という言葉でした。

私は、この言葉ほど人としての理想を端的に要約した言葉はないと思っています。選手の皆さんにお願いしたいことは、勝ち負けに関係なく、応援されるチームであって欲しいということです。そして、在校生の皆さんは、とにかく頑張っている選手諸君を応援してください。直接、会場で声をかけることはできないかもしれませんが。入場制限の中の試合になるかもしれません。しかし、この厳しい状況の中、多くの人が尽力して、今回の高校総体を維持しようと頑張っているのです。どんな形であれ、競技に参加することに感謝し、全力を尽くして欲しいと思います。

□なぜ応援はエネルギーを生むのか

応援する、される関係が人間になぜ力を与えるのかということは、脳科学でも研究されています。人間の脳にはミラー細胞というものがあり、他の個体の行動を見て、まるで自分が同じ行動をとっているかのように「鏡」的な反応をします。このミラー細胞は、他人がしていることを見て我がことのように感じる共感(empathy)能力を司っていると考えられています。例えば、赤ちゃんが微笑むのは、微笑みという感情を理解しているのではなく、この細胞の力で母親の表情をまねているのです。でも、この作用で、赤ちゃんは「ほほえみ」という感情を学習し、人とコミュニケーションをとることが心地よいことだと理解します。

要するに、人は周囲から与えられる感情や雰囲気などを感知し、それをまねをするようにつくられているのです。だから、他者から応援されると無意識のうちにお返しをしているのです。そして、他者を応援すると、相手からプラスのエネルギーが返ってくるので、応援した人も高まります。つまり、応援は相互に高め合う行為なのです。家庭や学校で、挨拶や返事などを大切にするようによく言われるのも、大変理にかなっているのです。

□NFCでの位置付け

「応援する、される」ことは、年度当初に紹介したNFC (Nishiko Future Competency) の自他肯定力や、想像力、協働力の養成につながります。本校は、これらの力を以下のように定義しています。

○自他肯定力

- ・自分に自信を持つと同時に、様々な価値観や多様性を認め、他者と励まし合いながら互いに成長しようという強い気持ちを持っている。

○想像力

- ・経験していないことや他者の内面・状況を推し量る力を持ち、他者に共感することができる。
- ・理想や夢を追い求め、前向きな態度で未来を構想することができる。また、その構想を実現するための過程を具体的に思い描くことができる。

○協働力

- ・他者との協働を通じて、感情・行動のコントロール方法や相手との距離の取り方などを身につけ、他者（友人、先生、地域、先哲等）との対話やコミュニケーションを通じ、協力して活動に取り組むことができる。また、活動を通して集団の活動意欲を高めることができる。

この中で、本校の「想像力」は一般的な意味よりより少し幅広い概念として定義しており、他者の内面・状況を推し量る力や、共感力 (Empathy) も含んでいます。これらの力は、一人で身につけることは難しく、まさに学校やクラス、部活動などで様々な活動をする必要があります。そして、これらの力を身につけるための具体的な実践が「応援」なのです。

応援は、言葉にすればより強いエネルギーになります。エネルギーが伝わると、人間は信じられないほどの力を発揮します。皆さんは、今まで何となく応援をしてきたかもしれませんが、応援は人生の目的といっても過言ではありません。それぞれの思いを込めて、熱い応援のメッセージを送ってほしいと思います。

□佐賀北高校の奇跡

応援の奇跡については様々な事例があり、今日は1つ紹介します。もう15年近く前の話ですが、2007年の夏の佐賀北高校の奇跡の逆転ホームランの話を紹介합니다。甲子園の長い歴史の中でも、語り継がれる劇的な逆転劇です。この偉業を、私立の強豪校ではなく、九州の地方公立学校が成し遂げたということが、当時話題になりました。

佐賀北高校は、単位制を取り入れた学校で、九州では珍しい芸術科がある学校です。現在、甲子園というと、まず出場する学校自体が私立高校が多くなっている状況があります。まして優勝となると地方公立高校では例が少ないの

ですが、その大舞台で、なぜ佐賀北高校は優勝できたのでしょうか。

塾の経営や人材育成の講演を行う会社を営んでいる木下晴弘氏は、著書「涙の数だけ大きくなれる！」の中で、この佐賀北高校の優勝を、以下のように説明しています。

佐賀北高校とはどんなチームだったのでしょうか。それは、試合中に相手をほめるというものだったそうです。例えば、相手チームがヒットを打ちます。すると、佐賀北高校の選手が「ナイスバッティング」とほめるのです。三振を取られたら、相手のピッチャーを「ナイスピッチング」とほめます。佐賀北高校は、トーナメントを勝ち上がって甲子園に出場し、優勝まで勝ち続けるのですが、負けた相手は、佐賀北高校に負けても、佐賀北高校のファンになっていきます。そして、佐賀北高校は試合に勝つたびに、応援者を増やしなが甲子園の決勝にまで進んでいくのです。甲子園の決勝では、満員のスタンドが、佐賀北高校を応援する声援で埋め尽くされ、対戦する広陵を圧倒したとい

います。観衆はともかく、佐賀北高校に負けたチームまでもが、皆、佐賀北高校の応援団になったのはなぜでしょうか。それは、前述のミラー細胞というものの働きです。佐賀北高校の選手は、相手をほめることで、皆を自分の応援者に変え、多くの人のエネルギーを自分の力に変えていきました。奇跡の逆転ホームランも、佐賀北高校の選手が周囲に与え続けたパワーが、何倍にも増幅されて返ってきたからこそ、成し遂げることができたのかもしれない。

周囲を応援し、周囲を褒め、プラスの言葉を発する人は、周囲から応援され、周囲から感謝され、プラスのエネルギーをもらう人になります。好きなスポーツチームや、アイドルを応援するのも同じ理屈です。だから、応援する対象が多いほど、実は豊かな人生なのです。

□保護者が最大の応援者

「応援は、勝つための手段ではない。応援すること、されることが、人生の目的である。」

最後に、君たちの一番の応援者は誰でしょう。それは、君たちの「保護者」です。子供にとって、保護者が最大の応援団です。ですから、皆さんも「ただいま」の後に、「試合に参加できて良かった、ありがとう。」とか、「今日の弁当おいしかったよ。」の一言を添えましょう。君たちの一番のサポーターである保護者への感謝の気持ちを忘れないでください。君たちからの応援、感謝の言葉が、保護者としては最高の贈り物で、エネルギー源です。

また、先生方も、皆さんのサポーターです。保護者同様、「ありがとうございます。」の一言で先生たちは元気がでます。先生とはそういうものです。生徒に応援の言葉を贈り、頑張る生徒の姿を見てエネルギーをもらっているのです。皆さんの頑張りを支えている先生を、皆さんも応援してください。

本校には、皆が「応援」メッセージを投げかけ合い、高め合う関係性がすでに構築されています。それが象徴的に示されているのが、管理棟の勉強コーナーです。あのような関係をさらに構築し、お互い高め合っていきたいと切に思っています。